

KOMPAS

見えない「ぐすく山」との対話

伊江島の象徴であり、航海の目印ともされた「ぐすく山（タッチュー）」フェリーで30分と近いながら、意外にも本部港から山は見えない。

ぐすく山を指し示すコンパスのような、大きな屋根をもつ建築を今までそこにあった風景になじむよう、そっとそこに置く。見えない「ぐすく山」が顕在化され、伊江島と本部港につながりが見えてくる。

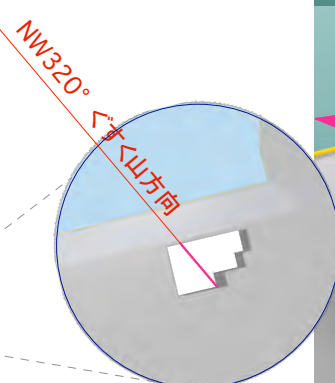
機能もスケールも異なる荷さばき施設とまちあいスペースを包含するおおらかな屋根の下で見上げながら船を待つ。フェリーに乗って屋根を見下ろして、自分の中の「ぐすく山」と目が合うような、各々の伊江島を思い描きながら、旅路や帰路につくような建築を計画する。



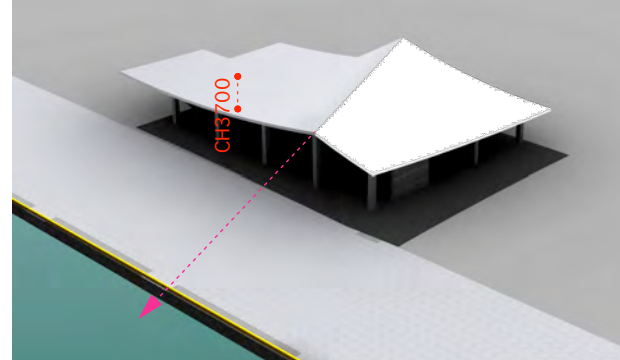
外観イメージ

● つくりかた

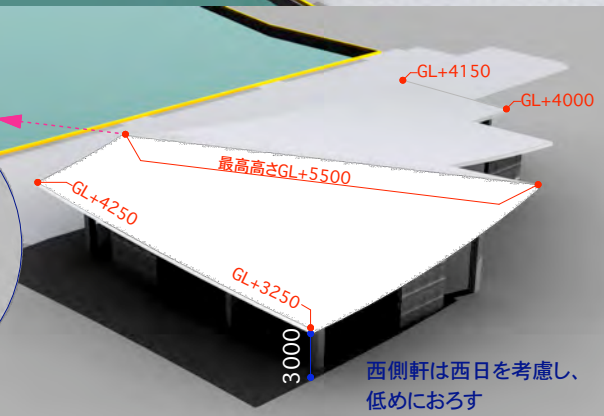
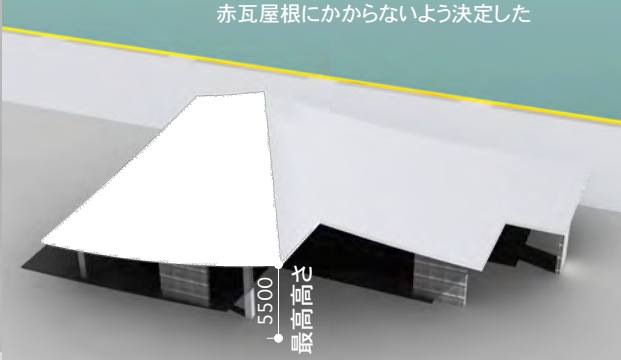
1) ぐすく山と本部港につながりをつくる → 大屋根の軸線の設定



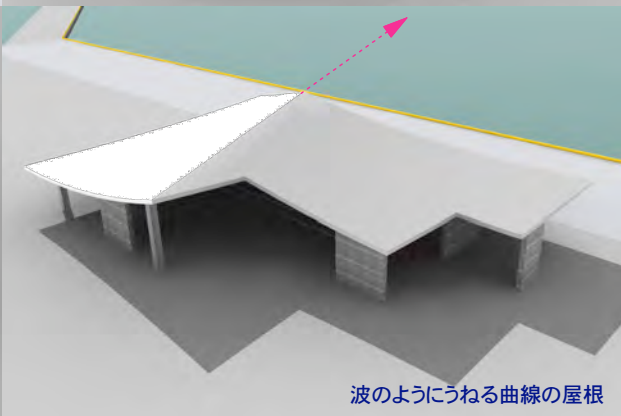
荷さばき場は、最低天井高さ3,700を確保する



最高高さはターミナルの吹抜窓下に合わせ、赤瓦屋根にかからないよう決定した



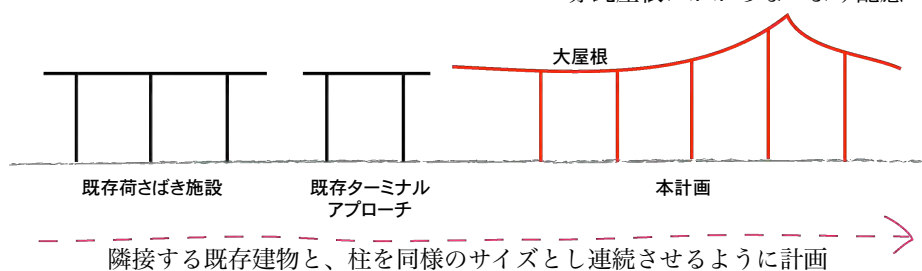
西側軒は西日を考慮し、低めにおろす



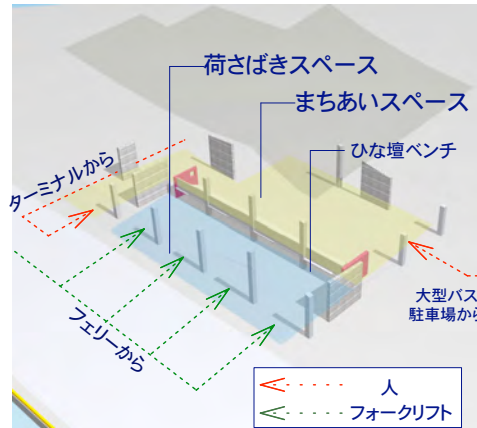
波のようにうねる曲線の屋根

2) 海側からの景観に配慮し、既存部分となじむ風景をつくる → 既存建築の文脈を踏襲

最高高さはターミナル棟の赤瓦屋根にかからないよう配慮



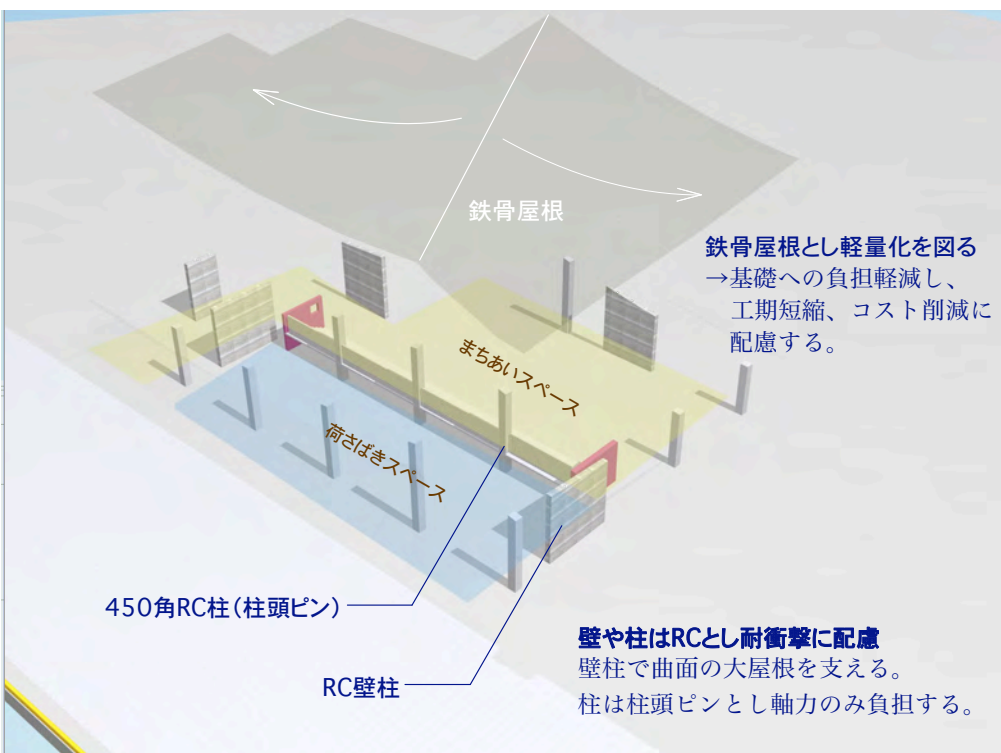
隣接する既存建物と、柱を同様のサイズとし連続させるように計画



3) シンプルな平面配置

道路（海側）に面して荷さばきスペース、ターミナル側にまちあいスペースを配置。

両者の間は、ひな壇状のベンチでゆるやかに仕切る。乗船口の関係で、動線が交錯する場所が出てくるため、荷さばきの作業効率性を優先し、利用客の安全を確保した。また、シンプルな配置構成のため隣地への将来的な拡張も容易。

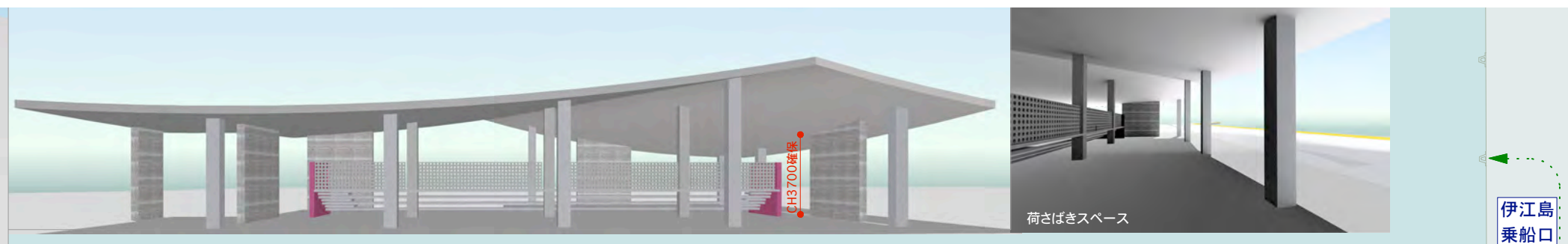
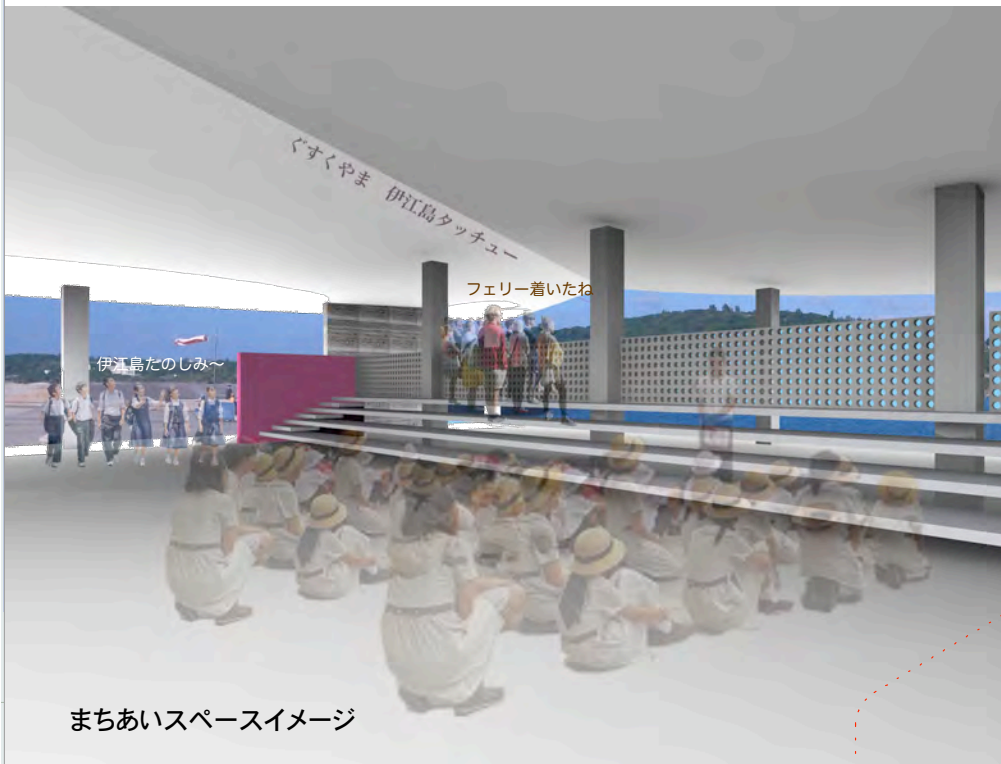


■材料、メンテナンス

フォークリフトがぶつかった際の耐衝撃性、安全性を考慮し、柱、壁は強度に優れたコンクリートを採用している。ほぼメンテナンスフリー。屋根は鉄骨とし、塩害などの耐候性に優れたフッ素アルミ亜鉛合金メッキ鋼板仕上とする。

■コストバランス

コンクリートの柱、壁柱、基礎を採用し基本的にはメンテナンスフリーとする。大屋根は鉄骨屋根で軽量化し、基礎への負担を軽減し、地耐力5t/m²程度を見込み独立基礎とし、杭を不要としコスト削減に配慮する、



建築概要	
■階数	:地上1階
■構造	:RC造、一部S造(屋根)
■床面積:	
建築面積	:454.98m ²
施工屋根面積	:555.98m ²
■最高高さ	:5,500mm
■仕上	
柱	ーコンクリート打ち放し 撥水材塗布
壁	ー杉板本実型枠コンクリート
一部	コンクリート左官補修+フッ素樹脂塗装
床	ーコンクリート土間 金ゴテ仕上
屋根	ーフッ素アルミ亜鉛合金めっき鋼板